九五　（一八四七）（弘化四年）　養蚕人心得の歌〔C〕

蚕養の人心得の歌

今日出たる蚕ハけふ（今日）にはき（掃）とれ（取）よ
　明日までおけハ病とそなる
手間むしろおし（惜）ます蚕薄くして
　夜桑たやさす（絶）寒さしのげ（凌）よ
人壱度蚕尻をとら（取）バわれ（我）ハ二度
　三度の桑ハ四度くわせ（食）よ
寒さ暑さ陽気ちがひ（違）のそのときハ
　情気つゝむな桑でしのけよ
休起蚕の口をからす（涸）なよ
　桑の少しハどくの毒なり
風ハ只情気籠（こも）らぬためなれは
　昼夜気を付窓のあけ（開）たて
はしめほと薄養にして桑あつく
　情気つゝむな蚕尻ためるな
寒き日ハなを沢山（たくさん）に桑くれて
　情気つゝむな夜るも気をつけ
烟（けむ）りにて春蚕ハ養よ火て養な
　寒さ暑さハ桑て凌けよ
人の意気（息）すると同しき風なれは
　ほのかに入て情気つゝむな

右、信濃国上田上塩尻村清水金左衛門と云」ふ人著す所の、養蚕教弘録中より抜書なり